

幼 兒 教 育

第二十卷
第五號

大正九年五月十五日發行

幼稚園は親子の要求を満足させよ

——日本幼稚園協會總會の講演大要——

内務書記官 法學士 田 子 一 民

私は、内務省の役人ですが、一體役人といふものは、學者にも、實際家にも屬せない先づ幽靈の様なものです。此處には、湯原先生の様な學者もお出でになる、また、皆様の様な實際家もお出でになる。お役人といふものは學問をして學者となるには忙がしすぎる。さりとて實際的の事はと云へば書類を見て之を知るにすぎない、いはゞ頭は天につかず、足は地につかぬもので即ち幽靈です。この幽靈が春のこの時學者と實際家との間に立つて、お話をするといふ機會を得たわけで、私は今日は講演といふのでなしに、私が世間にむかつて切に訴へたいと思つてゐる私の衷情をたゞ吐露したいと思ふに過ぎません。

○子供に對して冷酷無慘な

文明國

日本は、家庭では子供を可愛がるが、社會的には實に、子供を冷酷無慘に取扱ふ國です。かくいふ私自身は、別に繼母にそだてられた譯でもなく、幸福な者ですが、しかし私の様な幸福なものでも、今の我が國の現状を見ると、子供に對して冷酷であるといはざるを得ない。もし我々が、人種とか風俗とかいふものを抜きにして考へて、神様が赤坊に向つて「君は、何處の國に生まれて來るか」と問ふとすれば赤坊は言下にこたへて「日本の様な、子供に冷酷な國には生れたくない」といふでせう。私は最近外國を遊歴して、しみじみ之感じました、日本に歸つた

らば、是非、子供の問題を何とか片づけなければならぬ。尤も私は非常な子供おもひで、外國かきこに居つても、ホーム・シックには、かゝらなかつたが、チルドレン・シック——實際、妻君よりも子供達の方が思はれてならなかつたのです。——にかゝつた。英國のある孤兒院に参りました際など其處には千人ばかりの孤兒が居ましたが、どの子もこの子も、自分の家の長男や次男に見える。その子供達を抱いたり、キッスしたりして、随分このチルドレン・シックがなぐさめられたわけでありませう。そんなわけで私が一倍、子供の事に氣がつくのかもしれませんが、兎に角、世界の文明國として、子供の保護の行き届かないのは、實に日本ぐらゐなものでせう。一例として我が國小學校令の中の第三十三條をひいて見ませう。その第三項に、貧乏な家の兒童にして學令に達したるものは、その就學の猶豫又は免除をする事が出来るといふ意の事が規定してあります。まあ考へてご覧なさい。日本の様な小さな國、職業の數もたらない國で、大學を卒業した者さへも就職難をうつたへて、生活難にあふ國ではありませんか。それが一方には、小學校にさへも行かれ

ぬものがあつて、その子が成長して社會のどういふ地位を占める事が出来ませうか。實に貧乏人に生れた子供。その父は貧乏をもつて、之、職とし、代々貧乏をだけのこして死んで行く。地位の得られ様がない。そして一方、法令は實に明らかに教育をうけなくてよいといふ。大學にはいれる様な子の家は、すでに父は地位もあり、金もある。そこでその子も地位を得る。この兩極端の二個の人が、このちつぽけな國の中で競争して「さあ、職業の選擇は、諸君の自由によませる、何でもえらびなさい」といはれたとて、何の自由がありませんか。貧乏人の子の前途思ひ知るべしではありませんか。二十餘年前の法令が、今日、なほ依然としてゐるとは、むしろ不可思議の事です。私は之を實に重大な問題として、嘗つても中央慈善協會でこの事をのべましたが、少くとも、貧困の家の子は、國家(府縣市町村)が金を出して義務教育をうけさせねばならぬと、考へて居るのであります。

勞働問題が近頃やかましい、しかし彼等は立派な團結力があつて、一舉、政府にあたり得る力があります。しかし、子供はかく團結して、彼等が自發的

に他に訴へる力をもちません。實に氣の毒です。かかる力なき助けなきものを、打捨て、置く國は、たしかに殘酷な國といはざるを得ません。私は衷心から、日本の子供のために、ひと骨折らねばならぬ事を感じます。扱、これから私が兒童に對して日頃有する考へを申述べませう。

○大人が子供に對しては

子供を我々大人から考へる時には、先づ、個人的に、次に、團體的に考へられるのです。

一、個人的方面より

これがまた、四つに分れます。

(1) 親の愛情の對象として考へられる子供

子供は實に親の眼には、理屈ではどうにもならぬ可愛さがあるものです。

(2) 親が自己の生を後世にのこすために

この方は(1)にくらべると、やゝ、知的になりませんが、親が、子を通じて、空間的の自己の人格をまた時間的に後世に繼がせたいと思ふのであります。

(3) 親の死後の靈をなぐさめてもらふために

これは、親が子に對する考へとして、實に利己的のものですが、つまり、親は自分の命は死とともに終るとしても、その靈は、神になるか、佛になるか、兔に角、ついでと考へる。その靈を自分の子供になぐさめて貰ひたいと願ふ。これが我が家族制度のものをなして居るので、先祖の祭りといふ事は、なか／＼我々の頭につよくはいつてゐる事です。

(4) 自己の樂しみとして

これは、親よりも、むしろ以外の人々の子供に對する考へともなりませうが、子供を育てるその事を自分の樂しみとするのです。

二、團體的方面より

これがまた、いくつかに分れますが、

(1) 國家、社會が存する以上、その構成分子たる兒童を保護することは、國家社會それ自身の存在の目的を全ふするために必要であるとするので、昨年八月、獨逸に出來た新憲法には、妊婦を國家が世話をして、又子供が多數の時には、國家が之を保護する義務がある、といふ事が定められて居ります。即ち換言すれば、國家、社會といふ團體の存在の理由の

一つは、その一分子たる兒童を保護する事にありといふ論になります。

(2)これと反對に、國家、社會の存在、その發達の方が主で、之を全ふせんためには、兒童を保護せねばならずとするので、即ち國家、社會を強くするための手段として、兒童を保護するといふ考へ方があります。

(3)また、人道主義の立場から、兒童の保護が考へられて居ります。當然、又最も自然の保護者は母であるが、その母が保護し能はざる時は、之を人道主義の立場から他の、なし得る力で保護するといふ考へ方です。

(4)また、國家が存在して行くためには、軍備が必要である。そのためには、たへず壯丁が興へられねばならぬ。この意味で、兒童を充分保護せねばならぬと、考へるのであります。

かくのごとく、個人的及團體的の諸方面の要求があやをなして此處に、また、種々の形で、兒童保護の問題が生れて來るわけでありませう。

○子供が大人に對しては

次に、子供の方の立場から大人に對して、どういふ考へをもち、どういふ事を要求するでありませうか。この問題は、兒童の權利などと云ふ標題で多くの人がのべて居る所であります。先づ大體次の様になりませう。

(1)子供が親に對する要求として、先づ第一にすることを思はれる事は、正當な夫婦——正當な結婚によつたもので、即ち、役場の臺帳に登記したるもの——を親として生れた子でありたい。といふことで、近頃は、形式を無視した自由結婚などといふ言葉もありますが、子供からいへばせれば結婚せざる母の子供にはなりたくないのです。統計によれば不正當な夫婦から生れた子の死亡率は、正當なる夫婦のその二倍になつてゐます。これは明かに、子供の生存の上からしても、結婚せざる母の子は、不幸なものであるといふ事がわかります。

(2)また、單に、役場にどこけた正當な夫婦を親とするからよいといふに満足せず、更に、兒童は、自分を生んで呉れる兩親は、身體も、精神も、立派でありたいとねがふのであります。そして、子供自身がその兩親の立派な後繼者でありたいと願ふのであ

ります。

此處で私は少しくアルコホルの害について述べたいと思ふ。多くの心理學者、生理學者の研究の結果今日では、動かすべからざる事實として發表されて居るのは、アルコホルをかけた男子を父にする子供は、身體上も、精神上も弱いといふ事でありませう。そして、そのヒヨロ／＼した子供の養育の任にあたるのは主として母親です。實に婦人は氣の毒なものです。夫のことを良人とかきますが、アルコホルを用ふる男子、そして害をその子孫にのこす様な人達、その妻にとつては決して良人ではありません。悪人です。昔から良妻賢母といふ事を申しませんが、婦人ばかりに良と賢とを要求する事は出来ません。男子もまた良夫賢父ならねばなりません。酒を呑んで家を外にとびまはつて、我子の顔さへ見ず、子は父をたまに見ると見知らぬ人と思つて泣き出すといふ様な有様では實に悪夫愚父といはねばなりません。子供は両親の子供です。いかに母親が賢くとも父が愚で、酒にひたつてゐる様でどうしてよき子供が出来ませうか。禁酒といふ事に向つては、現在の女子が聲を大きくして呼ばねばならない事です。少

し話がわきにそれましたが、次に子としての立場からの要求は、

(3)この世に、一度生れた以上は、たとえ其の子が不正當な結婚による夫妻の子であるにせよ、不健全なる身體をもつて生れたにせよ、その生れた子供には罪はないのでありますから、子供は、自身の有する天性を充分に發揮する様に養育してもらひたいと望むに相違ありません。

○幼稚園

此處で即ち皆様の日頃から苦心してゐられる幼児教育の問題がおこるのです。即ち、遊びの本能を土臺として彼等に自由な發達を要求する譯になるのです。西紀一八三七年に、フレイベルが幼稚園の源を植へつけましたが、しかも、幼稚園キンドergartenといふ名をもつてよばれるに至つたのは、一八四〇年以後の事です。そして、フレイベルは、何處迄も子供の自由活動を、遊戯活動を、筋肉運動の訓練を重んじ、子供を子供として完全の養育を受けさせる様に努力し、先生本位に、社會本位に考へる事を許さなかつたのであります。「兒童は保母の先生なり」とは、フレイ

ベルの言つて居る有名な句です。

扱、理想としては、兒童は親の手に養護教育されるべきものですが、不幸にして親を失つた子供、又は、親がその親たる任務を果す事が出来ない時に、之を國家なり 社會なりの方でせねばならぬ事になり、こゝに社會事業が起るのであります、社會事業の事については今日は略します。

そこで今日のこの集會に直接關係のある所の幼稚園の問題について考へて見ませう。私は、勿論、その道の専門家でありませんが、詳しい事は知りませんが、兒童保護の立場から必要上、幼稚園を時々參觀します。先づ幼稚園と云ふても、デイ・ナーサリー (Day nursery) と、キンデルガルテン (Kindergarten) の二つの種類があります。前者は一八四四年に初めて佛國に出來たもの、後者は一八四〇年に獨逸のフレーベルによつてとなへられたもので今日も尙これをこのまゝ「幼稚園」として用ひて居ります。キンデル・ガルテンといふのは申す迄もなく獨逸語です。英國でも、米國でもなか／＼外國語はそのまゝ用ひないのでありますが、このキンデル・ガルテンだけは今は世界語となりました。獨逸語そのまゝを用ひてゐます。

もし英語にすれば、チャイルド・ガーデン (Child Garden) ともいふ所ですが、そうは申しません。

また、デイ・ナーズリーの方は晝間託兒所又は保育所ともいふべきもので佛國パリに初められたのです。その最初は工場が發企したとも學校が初めたとも云はれて居ります。この事については既に先年同じこの協會の集會で、生江氏がのべて居られますから、私は詳しく申上る事を略します。學問上から云へば兩者の區別はないわけですが、たゞその出發點を異にしてゐます。即ち幼稚園の方は何處迄も教育を主眼として居りますが、「晝間託兒所」の方は親の足手まどひになる子供を預つて、之を保護するといふ事にあるので、随つて教育的の諸種の施設は幼稚園の方がはるかに進んでゐるのです。

幼稚園の自家は、先にも申した様に獨逸ですが、今ではその自家よりも米國に於て實に、非常な發達をしてゐます。コロンビヤ大學にも、シカゴ大學にも之が研究の施設があり、又、ゲリーシステムの學校でも幼稚園の研究は盛にされてゐます。従來は、直感主義、遊戲主義であつたものが、近頃は筋肉主義が盛にとなへられてゐる様です。これはどういふ

事かと申しますと、例へば幼稚園で兎を飼養する。それを入れる大きな箱をこしらへて、一組の幼児が五十人なら五十人、朝八時に集まる。そして、前日によい事をした子供が、その中から選ばれて、兎の箱を講堂の真中にはこぶ、そして筋肉を練習し、又その子の勇氣を組の子供が觀察する。そして元氣を貴ぶ氣風を養ふ、次には、また、善行をした第二位にある子供が兎に餌をやる名譽を擔ふ、そして兎が餌をたべるのを皆が觀察する、といふやうな仕方です。今、文部省の第四課におられる水野常吉氏が先年、ボストンで「日本の幼稚園」といふ本を出版されましたがその中には、幼稚園を経て小學校へ來たものと家庭からすぐに來たものについて、比較研究の結果をあげて居られますが、それによると、幼稚園を通つたものは、「物の了解、記憶力などはすぐれてゐるが、努力を要する事となる、幼稚園を通らぬものよりもおとる。又、習慣の上からいつても幼稚園から來たものは、どうも時間中に話をしたり注意が散漫になつたりする。身體的方面からいつても、幼稚園を経過したもの、方の健康は然らざるものよりもおとつてゐる」と申して居られますが、幼稚園生

活が即ち知的にはまさるが體力の方面でおとり、努力をする力がたりないといふ缺點を補ふために、筋肉主義が考へ出されたのです。幼稚園ではかくのごとく日々研究をつゞけて發達して行くのであります。之に反して、デイナーヌリー(畫問託兒所)の方は、たゞその場所に子供を預つて、怪我のない様に日光浴をよくさせて、一日を安全に送らせるといふ事にとゞまつてどうも教育的價值は乏しい様に思はれます。

○將來の幼稚園は如何すべきか

幼稚園教育の完成のために必要な條件は、

- (1) 家庭
- (2) 母
- (3) 社會

の三つであります。もつと、つゞめてしまへば(1)と(3)だけでもなりませう。よく幼稚園の效能をあげて遊戯とか音楽とか、或は筋肉の練習がどうであるとか。社會的生活の訓練がどうかいふ事をやかましく云ひますけれども、幼稚園教育を完成するには、どうしても、先づ家庭そのものが、又、社會そのものが、よくならねばなりません。幼稚園だけが決して孤立し得べきものではありません。

先づ家庭といふ立場から考へるにあつて、此處で私は、私一流のドグマを申上ませう。私は知育はともかくも、それ以外の人格的感化は愛といふ力であると思ふのです。

一を二とす。……(From twoness to oneness)
一を二とす。……(From oneness to twoness)

これが私のドグマです。即ち二を一とするといふものゝ最も強烈に表はれるのは、男女間の愛であります。別々の二つもの、所謂ゆるあかの他人なる二つものが、愛によつて一つにならうとするのです。一つにせねばやまない努力です。また一を二とすといふのは、これは母といふ一個體から 子供といふ一個體が別れる、一つのものが二つになるのです。其處で母と子との間には愛がある、その愛は一つから二つになつたものをまたもとの一つにひきもどさんとするのです。母親が子供を抱いたり、おぶつたりして、またいくら愛しても愛したりないその心持は實に此の、我から別れた一個體を我にもどさんとするつよい愛情であります。男女の愛——戀——はもと／＼二つのものが一つにならうとするのでありますから、一旦その絆たる愛情がなくなれば、全然も

とのまゝのあかの他人であります。よし役場の臺帳には一つのものとして、まだ、載つてゐるにせよ、當人同士はあかの他人であります。しかるに、一を二となす愛情、母子の關係は如何でありませうか。凡そ、子供をもたない人はありますが、親から生れない子供は何處にもありません。そこで、たとひ親子の縁がきれたといひ、勘當した、勘當されたとなつて役場の臺帳から消されてしまつても、もと／＼親から別れ出た一個體であるといふ事實は、どうしても消す事は出来ません。一つにひきもどそうとする愛情は、何處かに残つてゐるのです。繼母が繼子を本當の子の様に可愛がるといふ一種の自慢をよく聞きますが、それは二を一とする方の愛情で眞の母子の愛たる一を二とする。別れたものを取りもどさんとするの愛情ではあり得ないのです。もと／＼血をわけた我が個體の分れではないのですから。

そこで、幼稚園の保姆と、その子供との關係は如何にあるべきか、學者でもない、實際家でもない幽靈の私は、たゞ一つのヒント(暗示)を與へるにすぎないのですが、私はやはりその根本は愛情であると思ふ。幼兒と保姆との間はもと／＼他人である、

しかし二を一とするの愛情のきづなでつながれて行かなければなりません。かく言ふ事はやすく、事實は實にむづかしい事なのですが、これが出来なければ幼稚園がいくら設備がよいとか、保母に學識が豊だとか、保育法が充分研究されてゐるとか云つても、つまりそれは外物の事で、その原動力として保母の幼兒一人一人との間に愛情のきづながしつかりむすばれてゐなければ幼稚園教育は不可能になるのではありますまいか。

次に社會といふ方面から考へて見ませう。子供の教育といふものは、決して家庭なり又、幼稚園なり又デー・ナースリーなりの内だけで出来るといふ様にせまく考へてはなりません。實に社會全體が、この世界全體が子供の立場から見ても、そのもつてゐる遊びの本能も、歌はんとする本能も、あらゆる身體的活動も満足せしめ得る様なものとしなければなりません。この現世界を幼稚園たらしめ、すべての母親をこの大きな幼稚園の保母たらしめなければいけません。どうすれば社會そのものが幼稚園になり得るか、これについては幼兒のために心を常にくだ

く所の皆様が保母の方々が、研究し立案して之を當局に提示してほしいのです。遊園場の如き、音樂堂の如き、體育館の如き、幼兒のため施設が實に乏しいではありませんか。又積極的に何の施設をといふ他方には、消極的に幼兒の生活、その活動を妨害抑壓するものをのぞく様に努力すべきです。先日私は或る公園をあるいて居て感じました。あそこには子供のための遊び場もまづ相當にあるのですが、折角、幼兒が楽しく遊んでゐる所へ、何處かの小僧達が使のかへりか、ふと其處へ来て、幼兒等の遊具を全部奪ひとつてしまつて勝手に遊んでゐる。そして誰もこれをとがめないのです。私は實にこの侵入者たる小僧達をにくむとともに、かうしてうばはれて行く子供の世界を悲しまざるを得ませんでした。實に我々の考へる以上に、子供の世界はあらゆる方面にいろいろの方法で奪はれてゐるのです。自動車が近頃非常に澤山になりました。これがどの位子供達の生活を不安にする事です。私は思ひます。せめて學校の門前、幼稚園の門前は、徐行してほしいと、あのけたゝましい響きと早さがどれほど幼ない子供の神経を刺戟し、之を疲れさせるかはわかりませ

ん。學校や幼稚園が、「徐行せよ」といふ立て札を門の前に出したらよいと思ひます。ニューヨーク市などでは、細民の居る狭い横町などはクロースド・ストリート(Closed Street)と申しまして、其内には車馬が入らず、細民の子供等はその横町を「おのが天地」として安心して遊ぶ事が出来る様になつてゐます。實に、この社會全體を幼稚園たらしめ、どの母親も保母たる修養をつむ様になりたいたいものです。

○幼稚園の保母及管理者へ注文

大分、時間も立ちましたが、私は最後に、幼稚園の保母諸君及管理者の方々に注文したい事があります。先づ之をわけますと、四つになります。

(一) 現下の勞働問題の解決策の一方法として、現今の幼稚園は、この方面に適當の變化を試みる必要があります。この事は幸、先刻、會長湯原先生が御挨拶の中にお述べになつた事の中にありましたから重複をさける事に致します。私はいつも上流の家庭と幼兒との關係を考へます。貴族の生活をしてゐる母親は一日、何の用事もなくすごす事が多いので、下僕を多くつかつて、夫の世話も食事の世話も

萬事、他人まかせ、その上自分の子供さへ幼稚園に送り出してそれすら一切乳母まかせで、母親は一日ぶら／＼して居る、あまりそれでは閑すぎます。かかる家庭では、私は母親がそれこそ、かゝりきりで子供の教育をすべきで、幼稚園に出す事はいらないと思ふのです。しかるに中流又は以下の家庭で母親が何かと多用である、また社會に出てまで働かねばならぬ。かゝる場合に於ては、そこから起る種々の不自由を除かねばならず、よし母親直接の養護にくらべて、不徹底にせよ、日中は幼兒を幼稚園で世話することがよいといふ事になりませう。それ故幼稚園の事業は貴族から貧民に、金持から貧乏人に發達して行くべきで、母親が勝手氣儘を、樂をしたいから幼稚園が必要といふ事では大きな間違ひです。幼稚園は何處までも家庭の延長であつて、家庭でとれない所を幼稚園が補ふといふ様にする事が大切な事です。

(二) 幼稚園當事者が政府を指導して、もつて法制の確立を歸する事が重要な事です。貧民救濟といつても、いくら、せつせと救濟したからといつて、貧民はあとから／＼と、出て來るのですから、救濟し

切るといふ事はありません。これと同じくいかに經濟組織産業が整ふたどて、幼稚園の問題がそれで解決のつくといふものではありません。實際、幼稚園の當事者が、その研究の結果を發表して、如何にその事業が重大な事であるかを政府に訴へ、もつて、政府の方で、大學の教授よりも、専門學校の先生よりも、より以上、偉い人物を幼稚園教育者として送るといふ様にしなければなりません。幼兒——小さいもの——だからその教育者は何でもよいと云ふ事が出来ますか。もしそうならば、世の母たるものは、皆、馬鹿でよいといふ論法になるではありませんか。否、母親は實に最もえらい人物でなければなりません。幼稚園でも、實際その得た材料を政府に提供して欲しい。少しその道にかけて狂人めいた人が出て、うるさく政府にせまつて、之を鞭撻して、幼稚園教育の完成に適當なる法制を國をつくらしむる様にしたのです。

(三)今日の社會ならびに世の父兄をして、幼稚園の價値を、充分にしらしめなければなりません。「幼兒教育」の必要を力説しなければいけません。折角日本幼稚園協會が出してゐる雑誌「幼兒教育」も、ど

れ位發行して居られるか存じませんが、大に宣傳する必要がありませう。私共の今やつてゐる兒童保護の仕事の一つとして、感化院の世話をしてゐますが、これとても實際、法の方で地方にその設立の強制をし、授建物も出來、職員もそろつて、肝心の收容すべき兒童が集らぬのです。かういへば如何にも不良少年が少くていゝとお考へでせうが、はいるべき兒童がなくてはいらぬのならば、申し分がないのです。が、事實日本全國でこの不良少年の數が戰前に於て十萬人ありました。そして年々七萬人は出來るので、さういふ多數の不良兒を、感化院に收容し之を善導する事なしに、野にはなつて置く事の害は申上げる迄もありますまい。實に、社會全體が目覺めなければなりません。

(四)最後に教育といふ事業は、教育者の専有物であるを考へてはならぬといふ事を申上たい、何處迄も社會一般が責任を負ふべきものであるといふ事をお互がつねに自覺して居らねばなりません。そして教育者だけが、一人うれへ、一人つぶやくのでなしにびし／＼之を公にうたへて、一般社會と力をあはせるといふ事が大切です。

この意味で私は、役人を利用なさいとお勧めするのです。官僚だ、官僚だとして毛嫌ひしてはいけません、またよく官僚を打破せよといひますが、役人は一寸たゞいた位でつぶれるものではありません。それよりもその役人を利用なさるがよい。なかに役人といふような俗人どもがといつて眼中におかない様ではないけない。私は仙俗合同を主張します。即ち教育

者といふ仙人が役人といふ俗人と合同して初めて、事がうまく行くのです。よろしく教育者たる、また幼稚園教育の上に實際家としての權威を有する皆様は、充分その所信のある所をのべて、政府をして充分その仕事を了解せしめ、實行せしめるの機運をおつくりになる様に私はお勧めしたのであります。

(筆記——文責在記者)

○ちゅちゅむむさん

——古、い、ノートの中より——

ちゅちゅむむさんのお宅の御門に忌中といふ札が貼つてあります。進さんは一昨日は戸外でいつもの通り遊んでおりましたが昨日の夕方、温が四十度以上で寝てゐたといふ事です。まさかあの子が。

四つになる進さんは誰にも抱かれませんが。多勢の兄ちん達や姉さん達と一所になつて少し覺束ない足取を——義経はそんな弱蟲ぢやない皆に笑はれまいと——して獨立獨行の強い意志で歩いてゐます。駈出しさへもします。私には無論初めは抱かれませんでした。一度二人抱かれました。きつと私を父ちんと辨慶との合の子位に思つてゐるのせう。進さんにお菓子をお上げる時、今こゝでお食ひといふとすぐそれをむしや／＼やりませんがお宅へもつて歸るんですよと云うて聞かせるとうんといつて胸にだいたつてさつと歸ります。誰にあげるの？父ちんやん？母ちんやん？とときくと一番上の姉ちんやんにもと答へます。軍樂を奏すると、兵隊さんが通る。ラッパの底から一隊の兵士が行進して出て来るものと信じて身を駈けて待ち構へてゐます。そして進軍ラッパばかり聞えて遂に影も形も見えないと細い眼を丸くして誠に奇異の思をします。蓄音器が鈴蟲松蟲といふ唱歌を唱ひ出すとちゅちゅむむさんの松原さんだつてと、自分を呼ぶといふと、ニコ／＼してゐます。進さんはかういふ本當に可愛い子だつたんです。蘭は天くして挫けた。進さんのお宅の門の忌中の札は矢張り外ならぬ進さんその人のめであつたと分つ時、落著いて嘘ぞと信じ嘘でない。自然と人間との永遠の戦で、人の智慧が、むにづつて、人は自然を征服する。自然はその敵討をせずには居らぬ、自然に與へられた防衛を奪ひ行く上に種々な新たな病を施します。あ、可愛い、進さん、私の四歳の親友、自然と人間との戦ひにこれに餘りに悲しく慘酷すぎた。子は息才に生ひ立つてみするが深き孝行」と。大凡の親心を淋しい絲の上に託した人情の生地です。ちゅちゅむむさんを返して下さい。進さんは可愛い、い、んですもの。